

教えベタ 塾ならつぶれます

塾から見た学校

東大大学院で
公開研究会

塾こそ地域の教育機関だ―東京大学大学院の教育研究開発機構(機構長 刈谷剛彦・同大学院教育学研究科教授)が「塾から見た学校」という主題で先月、公

開研究会を開いた。パネリストは教育学者と塾経営者。塾と学校の役割について一般参加者を交えて討議した。「教え方が下手ならつぶれてしまう(塾経営者)」。そんな私企業としての側面もある塾の実態からは学校教育関係者も学ぶことが多かった。

ビデオで笑顔の練習

花まる学習会代表 高濱正伸氏

埼玉県を中心に幼稚園の年長組幼児と小学生を対象とした学習教室「花まる学習会」を開いている高濱正伸氏は、一般の親を対象とした子育て講座で講師を務めたり、公立学校関係者を対象に学習に関する講演を行ったりと幅広く教育問題に取り組んでいる。その経験から、子どもを学ぶ気にかせるヒントなどを紹介した。

業の中に「学習法指導講座」を設けていることを紹介。小学校低学年では、姿勢を正すことの重要性、鉛筆の持ち方などを伝えるほか、授業中、先生の話が分からなくなっ

たときの質問の仕方について、ロールプレイを交えて教えているという。また、「遊んだ後の子取り方、暗記の仕方、フ

今後の学校制度の在り方については「塾が学校をつくる可能性があるから、授業中二、三秒でできる遊びまで、さまざまなものがある。それを意識的に導入しているという。

「学力、成績が伸びなかったら、塾生にやめられてしまう。教え方が下手だと言われたら失職してしまう。学級崩壊を起こしたらつぶれてしまう」

「茶髪、腰パンの『不器用』も伸びたいと思ってしまう」と、遊びをうまく

「名前を呼ぶ。名前で呼ばれることで、塾生は存在が認められたと感じる」と、笑顔を大

「名前を呼ぶ。名前で呼ばれることで、塾生は存在が認められたと感じる」と、笑顔を大

「名前を呼ぶ。名前で呼ばれることで、塾生は存在が認められたと感じる」と、笑顔を大